



Supporting the Culture of Azumino

特集

安曇野の文化を支える友の会

美術館や博物館が多く点在する安曇野では、暮らしのすぐそばに文化・芸術があります。その身近な存在として各館を支える友の会。今月号では、友の会の活動を紹介し、その課題と魅力に迫ります。



安曇野の文化と地域をつなぐ

美術館や博物館の活動をサポートし、美術や文化などを通じて会員同士の交流を行う友の会。市内では、各施設を拠点に個性豊かな友の会が活動しています。美術館・博物館の作品や資料を通して学芸員や作家と交流しながら、地域の魅力を再発見

し、安曇野の芸術・文化の振興の一翼を担っています。

会員数の減少を乗り越えて

しかし、近年は、多くの友の会で高齢化や担い手不足などの理由から会員数が減少しており、美術館・博物館を支える縁の下の力持ちとしての活動が危ぶまれています。

4月18日、豊科近代美術館友の会の総会が開かれ、会の解散が決まりました。同会では、これまで彫刻磨きや落ち葉掃除などのボランティアやコンサート、展示の企画・運営を行ってきました。また、美術館の代名詞となっているバラ園の維持管理を主力として担ってきました。同会は平成14年に会員42人で発足し、一時は約250人まで会員を増やしました。しかし、会員の高齢化などで現在は約100人まで減少。美術館の長寿命化工事で活動に影響が出ることもあり、一度解散し、美術館のサポート体制を見直すことにしました。

今後は、友の会の年会費をなくしボランティアと入館無料等といった特典との関係を整理し、市民の皆さんが気軽に参加しやすく、分かりやすい体制づくりを目指します。4月からバラ園ボランティアを募集したところ、5月9日現在、18人の応募があり、同館館長の清澤栄三さんは、「最初が肝心。誰でも参加しやすい体制を皆さんと一緒に丁寧に作っていききたい」と話します。

幅広い世代の交流のために

友の会が抱える課題を解決し、会員の減少に歯止めをかけるために、幅広い世代の人たちに安曇野の文化に関わってもらいたい——。そんな

思いから各館では、魅力的な取り組みを多く行っています。

田淵行男記念館の「むしの会」では、田淵行男の自然を愛する心を次代を担う子どもたちに受け継いでいこうと、小中学生とその親子を対象に市内各所で月1回自然観察を行っています。(4ページ参照) また、豊科郷土博物館の「タカラ探し部」では、親子で楽しめる講座とフィールドワークを組み合わせて2世代で楽しめる取り組みを行っています。(5ページ参照)

世代を超えて美術館・博物館の活動に携わる機会と人口を増やすことは、安曇野の文化の魅力を広げることにつながっています。次ページでは、会員の皆さんのインタビューとともに友の会の活動を紹介いたします。

豊科近代美術館 ローズウィーク

日時 5月27日(土)～6月2日(金)
9:00～16:00

場所 豊科近代美術館バラ園

内容 バラの苗の販売・穂高陶芸会館の作品販売(15:00まで)

問い合わせ 豊科近代美術館
Tel.73-5638